第21号
July
2012
国立大学法人岐阜大学
教養教育推進センター

# 教養教育ニュースレター
# アンゲリア
ἀγγελία

「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

## 大学教育における「教養」とは　— 自立と責任をもつ学生としての期待 —

**教養教育推進センター センター長 福士秀人**

教養教育推進センターは今年度から組織体制の変更ならびに新たな共通教育を開始しました。私自身もセンター長として2期目を拝命いたしました。改めて、大学における教養教育とは何かを私自身、問いかけております。改革を進めておきながら、いまさらなぜ問いかけているのかといわれるかもしれませんが、現代社会における大学の役割が問われている今、やはり「教養とは何か」、「教養教育はいかにあるべきか」を問わずにはいられません。そのようなときに、新入生にむけた言葉を依頼されました。私自身の今の気持ちを新入生や在校生への言葉として書きました。教職員の皆様は大学教育における「教養」をどのようにお考えでしょうか。

新入生、在校生のみなさんへ

1年生の皆さんは入学して数ヶ月たち、どれくらい成長されたでしょうか。在校生の皆さんは、初心に立ち返り、入学時の夢や希望にどれくらい近づけているでしょうか。

さて、岐阜大学では学生の皆さんに身につけて欲しい能力として「基盤的能力」と「専門的能力」を掲げています。これらの能力を大学生活4年間ないし6年間でしっかりと身につけ、豊かな教養と確かな専門性を備えた21世紀型市民として社会に貢献できる人材になってくれることを期待しています。

なぜ、豊かな教養が必要なのでしょう。もう一度、考えてみてください。確かな専門性があれば、専門家として社会で活躍できるのではないかと思う方も多いと思います。ここで考えて欲しいのは、社会は専門家だけで構成されている訳ではないということです。また、「専門性」にこだわりすぎることによる視野の狭さや考えの浅さが何を招いてきたかを見直してください。実は、本当の意味での「専門家」ほど、教養が豊かなのです。それは、社会における自らの位置や役割を認識することが教養をとおしてわかっているからであるといえます。専門家ではない人々に自らの専門的な能力を示すためには、専門外の能力、つまり、「教養」が必要となります。

では、どうすれば豊かな教養が身に付くのでしょう。学生の皆さんであれば、日々の授業や生活を通して、ゆっくりと確かめながら身につけていくしかないのではないでしょうか。そのきっかけの一つとして、教養教育推進センターが提供している全学共通教育があげられます。この全学共通教育で学ぶことは、あくまでも生涯にわたる学びのはじまりです。これまで人類が築いてきた知的財産や体験的知見が全学共通教育で展開されています。担当する教員は岐阜大学のすべての学部や教育・研究センターからの参加です。自ら学び、問題意識をもち、教員に飛び込んでください。待っていても何も得られません。

昨年度からは学生相談員の皆さんにも教養教育推進センターの様々な活動に参加してもらっています。学生の皆さんと教員・職員の3者が一体となって大学は成り立っています。よりよい学びの場としての岐阜大学を皆さんといっしょに作り上げていくために、学生の皆さんが自立と責任をもった人物として成長していくことを期待しています。

## 学生相談員との懇談会を開催しました

【日時】5月9日（水）16：00〜18：00
【参加者】学生：7名、教員：6名、職員：3名
全教科目の履修方法について新入生からの相談に応じた学生相談員の労をねぎらい、今後の教訓を共有するために学生・教職員で懇談会を開催しました。懇談会ではお茶とお菓子が用意され、自由な雰囲気のもと教養教育について活発な議論が交わされました。

## 教養教育を前向きに捉えるために、乗り越えるべき「壁」は何か

**教養教育推進センター准教授 安田淳一郎**

教養教育で何かと悩みを抱えられているのは、私を含めほとんどの先生方で同じだろうと思います。教養の授業には、専攻の異なる多様な学生が共通して興味を持つようなテーマ設定や授業内容の構成、そして公平な成績評価などを行う際に特有の悩みがあります。

そもそも教養の授業を担当する際の悩みは、教養教育の大枠の方針は決められているものの、個別の授業の教育目的・内容を決める自由が教員個人に大幅に委ねられていることに一因があると考えられます。この教養教育の自由を負担に感じる方もいるかもしれません。

このように感じたとき、自由は自己発現の機会であることを思い出してみてはどうでしょうか。例えば、教養の授業は自身の専門知識とその周辺知識を独自に体系化する機会として活かすことができます。一例ですが、教養の授業担当を機に入門書を書かれた先生からは、多様な学生の反応を見ることで、一般読者の関心が高い話題やストーリー展開を汲み取ることができるとお聞きしました。

さらに、教養の授業は自学部生の視野を広げるだけではなく、他学部生に自身の専門分野の精神を伝える機会にもなります。将来地域のリーダーになる学生たちが多様な学問分野の精神を理解することで、多様な社会的活動が互いに尊重され合う社会が作られていくのではないかと、私は期待しています。

## 学生相談員を通して広がった世界

**工学部社会基盤工学科２年 岩崎誠**

新入生から履修相談を受ける中で、入学当初の自分を振り返り、希望に満ちた新入生と新鮮な感動を共有することができました。ある新入生からは「全共の授業でためになる楽しい授業を教えてください」という質問を受け、翌日まで延長して相談対応をしたこともありました。

その一方で、ある新入生から「楽に単位が取れる授業は何ですか」という残念な質問を受けたこともありました。上級生にも教養科目の単位を楽に取りたいと考えている人は少なくないですが、学生は専門の学びだけではなく、教養の学びにもっと積極的であるべきだと思います。教養科目では、自分の専門と異なる他学部の専門家の授業を受講でき、未知の世界に立ち入ることができます。それは総合大学である岐阜大の大きなメリットではないでしょうか。様々なことに好奇心をもつことで、新しい見方が得られたり、自分の進みたい道が決まったりするのではないかと思います。

教養教育に並々ならぬ熱意を持たれている教職員の方々の想いを何とか新入生に伝えたいという気持ちで履修相談に対応する中で、学生は大学の構成員だということを再認識しました。大学には様々な価値観をもった面白い学生や先生がたくさんいます。そのような人たちと積極的に関わっていくことで良い刺激を受けて物事の見方が変わり、自分の世界が広がりました。

**編集後記**

今年度から教養教育推進センターの任期付専任教員を拝命しました。全力で取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。また小紙編集担当者として読者の皆様の声を拝聴し、紙面に活かして参りたいと思いますので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております（安田）。

**教養教育推進センタースタッフ**（2012年7月現在）

| | | |
|---|---|---|
| センター長： | 福士 秀人 | 専門領域：獣医学（ウイルス学） |
| 副センター長： | 小澤 克彦 | 専門領域：哲学、宗教、宗教文化論 |
| 副センター長： | 野村 幸弘 | 専門領域：西洋美術史学 |
| 副センター長： | 安田 淳一郎 | 専門領域：科学教育学（物理） |

**岐阜大学教養教育推進センター**
〒501-1193　岐阜市柳戸1-1
ＴＥＬ：058-293-2169
E-mail：gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp

『アンゲリア』岐阜大学教養教育推進センターニューズレター（第21号）2012年7月発行　　編集責任者：安田 淳一郎